

伊勢神宮および周辺地域における観光の現況と課題

Current status and future issues on Tourism in Ise Jingu and its surroundings

助重雄久・大西愛理・中川祥平・中島茉莉愛・幅口桃衣・林 力也・牧 杏花

SUKESHIGE Takehisa, OONISHI Airi, NAKAGAWA Shouhei, NAKAJIMA Maria
HABAGUCHI Momoe, HAYASHI Rikiya, MAKI Kyouka

本研究では、伊勢神宮内宮の鳥居前町である「おはらい町」を訪れた観光客を対象にアンケート調査を実施し、伊勢・志摩・鳥羽地域内での利用交通手段や観光行動の実態などを把握した。それらの分析結果をもとに、伊勢神宮や周辺地域の観光が抱える課題として①外宮参拝客の少なさ、②内宮と鳥居前町の主客関係の逆転、③伊勢・志摩・鳥羽地域における滞在時間の短さ、④観光情報の不足の4点を指摘した。また、各課題に対応する解決策として、①外宮・内宮双方に参拝するならわしの周知や、外宮ー内宮を結ぶ路線バス・レンタサイクルの利用促進、②「おかげ横丁」を発着点とし「おはらい町」や内宮を巡るスタディツアーの実施、③伊勢・志摩・鳥羽地域の公共交通機関に4日間乗り放題で、主要観光施設の無料入場も可能な近鉄の周遊きっぷ「まわりゃんせ」の存在の周知と利用促進、④公共交通機関、観光関連施設、観光協会などのサイトで相互の情報を観光客に知らせていく仕組みの構築、の4点をあげた。

キーワード：伊勢神宮、伊勢・志摩・鳥羽地域、おはらい町、おかげ横丁、観光

I はじめに

伊勢神宮は「日本の国が始まった地」「日本人の心のふるさと」とされ、多くの人々が古くから参拝に訪れていた。とくに江戸期の伊勢参宮は、移動が制限されていた庶民にとって数少ない観光の機会でもあった。伊勢参宮の拡大には、全国への布教や祈祷を行う神職でありながら参拝者の案内や宿泊の提供などを行い、総合ツアーコンダクターとしての役割も果たしていた御師の存在が欠かせなかった¹⁾。

伊勢神宮の参拝客は、1871(明治4)年に明治政府が神職の世襲を廃止したため御師の職がなくなったことや²⁾、庶民の参拝熱が冷めたことにより大正期中頃まで年間100万人台で推移していたが、その後は再び増加しはじめ、第二次世界大戦の開始前後には700万人台に到達した。この時期には皇室崇拜・敬神崇祖と教育者の訓練・訓育の実践を目的とした伊勢神宮への修学旅行が盛んに実施され、1939(昭和14)年には史上最高の2,200,123人に達した³⁾。

第二次世界大戦後の混乱期には修学旅行が中止され総参拝客数も100万人台に落ち込んだが、1950年代に入ると400万人台まで回復し、1970年代以降は観光客が急増する式年遷宮の年を除け

ば、600～800 万人台で安定していた。しかし、1970 年代には伊勢神宮の参拝客数が年間 600 万人台で推移していたにもかかわらず、モータリゼーションの進展に伴ってバスや自家用車を内宮鳥居近くに駐車し、参拝を済ませるとすぐに志摩や鳥羽など次の目的地へと移動してしまう傾向が強くなった。この結果、1970 年代半ばには内宮の鳥居前町である「おはらい町」への入込数が約 20 万人、「おはらい町」にある赤福本店の来店客が約 10 万人まで落ち込んだ⁴⁾⁵⁾。

このような状況のなかで、1979 年には地域住民によって「内宮門前町再開発会議」が結成され、まちなみの保全や修景が進められた。また、地域住民の動きに呼応して、市でも「伊勢市まちなみ保全条例」を制定し、無電柱化や街路の石畳化を行うなど住民主導・行政支援型の「おはらい町」の再生が進んだ⁶⁾⁷⁾。さらに第 61 回の式年遷宮が行われた 1993 年には赤福グループの(株)伊勢福が運営管理する「おかげ横丁」が「おはらい町」中心部の赤福本店の向かいに開設された。

「おかげ横丁」は飲食 15 店舗、物販 36 店舗、美術館・資料館他 6 館の計 57 軒からなる⁸⁾。約 4,000 坪の敷地内には、江戸から明治期にかけての伊勢路の代表的な建築物が移築・再現され、三重の老舗の味、名産品、歴史、風習、人情を体感できることから、既存の「おはらい町」への誘客にも大きく貢献している。しかし、伊勢市内には伊勢神宮とその鳥居前町、二見浦を除くと集客力の高い観光スポットがほとんどない。また、隣接する志摩・鳥羽地域の観光スポットも分散しているうえに、山がちで海岸線が入り組んでいるため、スポット間の移動にも時間を要する。このため、伊勢市は依然として観光客が長時間滞在しにくい環境にあるといえる。

本研究ではこうした地域環境をふまえたうえで、「おはらい町」を訪れた観光客を対象にアンケート調査を実施し、伊勢・志摩・鳥羽地域に来るまでの利用交通手段、地域内での利用交通手段、伊勢市内および周辺地域での観光行動の実態を把握する。また、それらの結果をもとに伊勢市や周辺地域の観光が抱える課題を明らかにし、解決策について提案を試みる。

II 伊勢市の地域概況

伊勢市は三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置している。2005 年 11 月 1 日には、旧伊勢市・二見町・小俣町・御薮村が合併して、現在の伊勢市が誕生した。2015 (平成 27) 年国勢調査による人口は 127,817 人であった。市域は東西 16.99 km、南北 20.22 km にわたり、面積は 208.35km² (2014 年 10 月 1 日現在) である。北は伊勢湾に面し、中央には宮川や五十鈴川、勢田川が流れ、また、東から南にかけて朝熊岳、神路山、前山、鷲嶺が連なり、西には大仏山丘陵が広がっている⁹⁾。伊勢市がある伊勢平野の気候は、平野が南北に長いことから地域差もあるが、年平均気温は全般に 15℃前後、年平均降水量は 1,800～2,000 mm である¹⁰⁾。

伊勢市と市外を結ぶ主な交通としては、近畿日本鉄道(以下「近鉄」と称す)と、JR 参宮線、伊勢自動車道、国道 23 号線などがある。近鉄の特急電車を利用すれば、名古屋からは約 1 時間 20 分、大阪からは約 1 時間 40 分で中心市街地に近い伊勢市駅や宇治山田駅に到達できる。車の場合は、名古屋から東名阪自動車道、伊勢自動車道経由で約 2 時間、新名神高速道路と伊勢自動車道を利用すれば大阪から約 2 時間 40 分、京都から約 2 時間で到達できる。

伊勢市内には古くから「お伊勢さん」として親しまれてきた伊勢神宮があり、神宮御鎮座の町として栄えてきた¹¹⁾。このため、参拝客の土産品となる特産物にも恵まれている。真珠は伊勢・

志摩・鳥羽地域のリアス式海岸の湾内での養殖が盛んで、この地域でしか養殖できない「ベビーパール」、別名「厘珠^{りんだま}」と呼ばれる希少な真珠も生産されている¹²⁾。伊勢市内にも真珠を扱う宝石店が多くみられ、有力な産業の一つとなっている。また「赤福」は伊勢の代表的な銘菓として全国的に知られている。伊勢エビや伊勢うどん、漁師が船上や祝い事の際に食べたといわれる手こね寿司などの郷土料理もあり、伊勢市街地やアンケート調査の実施場所となった「おはらい町」などにも、これらの郷土料理が食べられる店が多い。

Ⅲ 伊勢神宮および周辺地域における観光の概況

1. 伊勢・志摩・鳥羽地域の主要観光地

ここでは、伊勢・志摩・鳥羽地域の観光地のうち、多くの観光情報サイトや旅行雑誌の人気ランキングで上位に入っている主要観光スポットについて、それらの概要を述べる。

1) 伊勢神宮(伊勢市)

「お伊勢さん」「大神宮さん」とも呼ばれる伊勢神宮は、正式には「神宮」という¹³⁾。神宮には、皇室の御祖先の神と仰ぎ、国民の大御祖神として崇敬を集める天照大御神を祀る内宮(皇大神宮)と、衣食住を始め産業の守り神である豊受大御神を祀る外宮(豊受大神宮)をはじめ、14所の別宮、43所の摂社、24所の末社、42所の所管社がある。

2) おはらい町・おかげ横丁

第Ⅰ章を参照。

3) 二見興玉神社・夫婦岩・二見浦(伊勢市)

二見興玉神社は御祭神に猿田彦大神を祀り、開運や家内安全・交通安全に御利益があるといわれている¹⁴⁾。正面に見える夫婦岩は、その沖合約700m先に鎮まる御祭神縁りの「興玉神石」と日の大神(太陽)を拝む鳥居の役目をしており、大小2つの岩が仲良く並ぶ姿から、夫婦円満や良縁成就を願う人々も訪れる。境内には御祭神のお使いとされる二見蛙(無事にかえる、お金がかえる)が多数奉献されている。

二見浦は古来より伊勢参宮を控えた人々が汐水を浴び、心身を清めた禊^{みそぎ}場であった¹⁵⁾。二見浦に参詣して身を清めることを「浜参宮」といい、現在では、禊をする代わりに神社に参拝し「無垢塩祓」を受けることを「浜参宮」としている。

4) 鳥羽水族館(鳥羽市)

人魚伝説のモデルとも言われるジュゴンを日本で唯一飼育している。約1,200種3万点もの海や川の生きものを飼育しており、「飼育種類数日本一」がキャッチフレーズとなっている¹⁶⁾。アシカやセイウチのショーを毎日開催しているほか、不思議な形や生態を持った生きものたちを約55種300点も集めた「変な生きもの研究所」や、両生・爬虫類をはじめとした水辺に暮らす生きものたちの生態が観察できる「奇跡の森」など、新たな展示方法への取り組みも行っている。

5) 志摩スペイン村パルケエスパーニャ(志摩市)

近鉄グループの「伊勢志摩近鉄リゾート」が1994年4月に開設したスペインをテーマにしたテーマパークである¹⁷⁾。異国情緒あふれるスペインの街並みを再現しており、子どもから大人まで楽しめるアトラクション、エンターテインメント、レストラン、ショップなどを通してスペインの

魅力を心ゆくまで体験できる。テーマパークの他に「ホテル志摩スペイン村」、伊勢志摩温泉 志摩スペイン村「ひまわりの湯」もあり、複合リゾート化している。

6) 横山展望台(志摩市)

英虞湾に浮かぶ 60 の小島と幾重にも折り重なるように突き出た半島を一望できる展望台で、標高 140 メートルの高さから、日本有数のリアス海岸美を誇る絶景が楽しめる¹⁸⁾。遊歩道も整備されているので、ハイキング・トレッキングにも適する。展望台下のビジターセンターでは伊勢志摩国立公園について学べるほか、クラフト体験や真珠アクセサリー体験ができる。2018 年 3 月 31 日に横山天空カフェテラスの展望テラス、木漏れ日テラス、そよ風テラスがオープンし、8 月 5 日にはカフェを併設した展望休憩所がオープンした。

2. 伊勢神宮参拝客数の推移

図 1 は、1956～2017 年の伊勢神宮参拝者数を示している。実線で示した「計」は内宮と外宮の参拝客数の合計で、双方の参拝客数の重複は考慮されていないが、明治期以降継続して「計」の数値が参拝客総数として神宮司庁より公表されている。

総数をみると、20 年に一度行われる式年遷宮の年以外は、1960 年代半ばから 2000 年代はじめにかけて 600 万人前後で推移してきたことがわかる。2000 年代半ばには一時的に 550 万人を割り込んだ年もあったが、2006 年以降は式年遷宮に向けたお木曳き行事や、内宮の入口にある宇治橋の架替などがメディアで盛んに取り上げられたこともあり、参拝客が緩やかに増加した。

式年遷宮の年(この図に示した時期では 1973 年＝第 60 回、1993 年＝第 61 回、2013 年＝第 62 回)には、参拝客が前年までに比べて急増したが、とくに 2013 年には前年に比べて 6,173,721 人(76.9%)増の 14,204,816 人にのぼった。しかし式年遷宮後には、参拝客数が遷宮前年までとほぼ同じレベルに戻る動きが繰り返されてきたことが、図からも読み取れる。

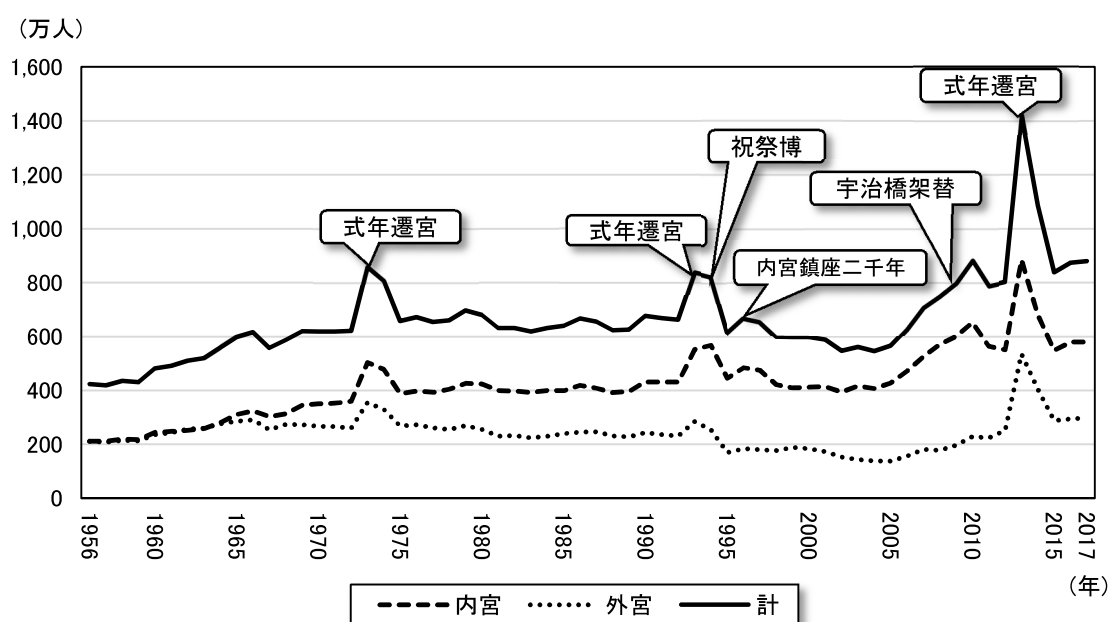


図 1 伊勢神宮参拝客数の推移(1956～2017 年)

資料：伊勢市観光統計(神宮司庁の公表数値)をもとに作成

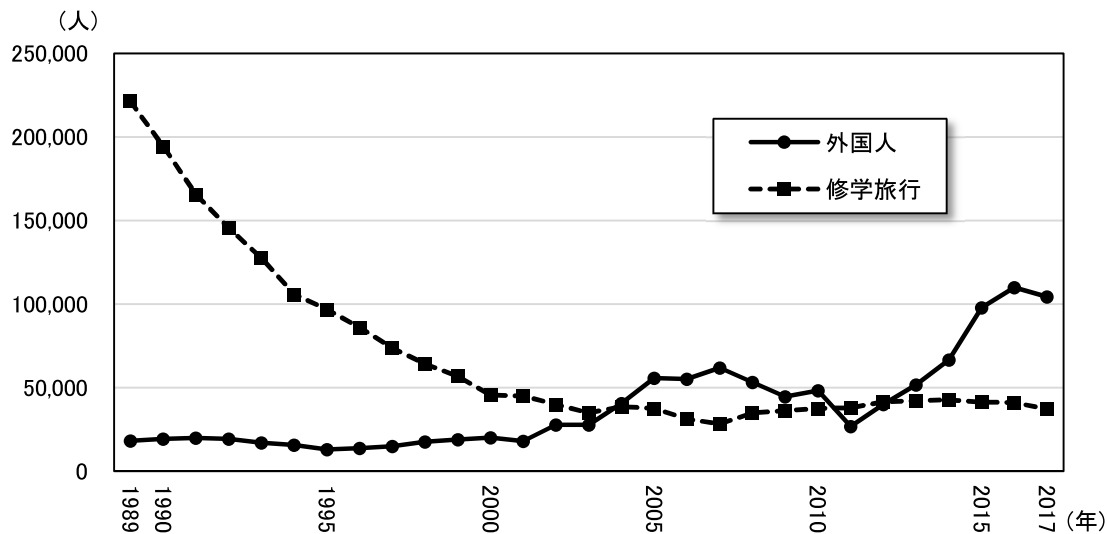


図2 外国人および修学旅行参拝客数の推移(1989～2017年)

資料：伊勢市観光統計(神宮司庁の公表数値)をもとに作成

内宮と外宮の参拝客数は1964年頃まではほぼ同数であったが、1965年以降は内宮が外宮を上回るようになり、しだいにその差が開いた。参拝客数の差が最大となった2008年には内宮を100とした外宮の参拝客数が33.1となったが、第62回式年遷宮が行われた2013年には60.5まで回復し、その後は50台、すなわち内宮の半分強で推移している。

外宮は伊勢市駅や宇治山田駅から徒歩圏にあり、周辺には伊勢市の中心市街地が広がっているため、鉄道利用客や市街地に宿泊する客にとっては参拝しやすい位置にある。しかし、モータリゼーションの進展により自家用車や観光バスを利用する参拝客が増えたことで、周辺に「おはらい町」「おかげ横丁」があり駐車場も多い内宮と、市街地に隣接していて車での移動や駐車がしにくい外宮との間に参拝客数の差が生じたものと考えられる。

図2は、1989～2017年の外国人および修学旅行参拝客数を示している。修学旅行による参拝客数は、少子高齢化による生徒数の減少や行き先・目的の多様化によって減少の一途をたどり、1989年には第二次世界大戦前のほぼ10分の1にあたる221,379人となった。その後も修学旅行による参拝は減少し続け、2000年以降は5万人を割り込んだ状態で推移している。

一方、外国人参拝客数は1989年には18,297人にすぎなかったが、2000年に初めて2万人を超えた。2011年には東日本大震災の影響で減少したものの、2012年以降は円安と政府によるインバウンドの拡大政策に支えられ、2016年以降は10万人を上回っている。

IV 観光動向調査の方法と結果

1. 調査方法

伊勢神宮およびその周辺地域における観光行動を実証的に把握するため、2018年9月13日(水)～14日(木)に観光客195名に観光動向調査を実施した。対象者は伊勢神宮内宮の門前町である「おはらい町」を訪れた観光客(県内客も含む)から無作為に選び、表1に示した調査票の質問項目に基づいて調査者が対象者(回答者)に直接質問する対面式アンケート調査を行った。

伊勢神宮および周辺地域における観光行動に関するアンケート

富山国際大学現代社会学部観光専攻 助重ゼミ

1. お住まいはどちらですか？

a. 県内「市町村名:」 b. 県外「都道府県名:」 c. 「国名:」

2. どなたと何人で来られましたか？

a. ひとり b. 夫婦・カップル c. 家族「 」人 d. 友人「 」人 e. グループ・団体等「 」人

3. 伊勢・志摩・鳥羽地域に来る時と、伊勢・志摩・鳥羽地域内ではどんな交通手段を利用します(しました)か？

利用した手段を、下の[]内に記入してください(該当するものすべて、その他は具体的に記入)。

a. 自家用車 b. レンタカー c. 近鉄電車 d. IR 参宮線 e. 観光バス(パックスツアー)

f. 観光バス(団体貸切) g. 路線バス h. タクシー i. その他()

伊勢・志摩・鳥羽地域外から来る時「記号： _____」

伊勢・志摩・鳥羽地域内での移動〔記号：〕

4. 伊勢・志摩・鳥羽地域に来たのは何回目ですか？ a. 初めて b. []回目

5. 伊勢・志摩・鳥羽および他地域での宿泊日数をお答えください。

伊勢〔 〕泊　志摩〔 〕泊　鳥羽〔 〕泊

他地域「 」泊 →場所またはホテル名「 」

6. 今回の旅で訪れる(または訪れた)伊勢・志摩・鳥羽地域の観光スポットすべてに○をつけてください。

a. 伊勢神宮外宮 b. 伊勢神宮內宮 c. 伊勢安土桃山城下街 d. 音無山公園 e. 二見浦

f. 伊勢古市参宮街道資料館 g. 倭姫宮 h. 伊勢志摩スカイライン i. 鳥羽水族館

j. 鳥羽展望台 k. 鳥羽湾めぐりとイルカ島 l. 志摩スペイン村 m. 志摩地中海村

n. ビン玉ロード o. その他[]

7. 今回の旅で訪れる(または訪れた)伊勢・志摩・鳥羽地域以外の観光スポットすべてに○をつけてください。

a. なばなの里 b. ナガシマスパーランド c. 名古屋アンパンマンこどもミュージアム&パーク

d. 多度グリーンファーム e. MieMu 三重県総合博物館 f. 三重県立みえこどもの城

g. 松阪農業公園ベルファーム h. 大内山動物園 i. 御在所岳 j. 伊賀流忍者博物館

k. 伊賀上野城跡 1. その他「

8. 伊勢・志摩・鳥羽地域の観光情報はどんな手段で入手しましたか？よく利用したものに○をつけてください。

a. 自治体・観光協会等のホームページ b. 民間の旅行予約サイトや旅行案内サイト

c. 観光パンフレット・マップ d. 旅行雑誌・ガイド(るるぶ、まっぷる、ことりっふ等)

e. 現地の観光案内所 f. 口コミ・知人の紹介 g. 旅行者の SNS やブログ h. テレビ番組

i. その他 []

9. 今回の旅でおはらい町やおかげ横丁で買ったものや食べたものは何ですか。

買ったもの「

食べたもの「

代表して回答された方の 【性別】 a. 男 b. 女

【年齡】 a. 20 歲未満 b. 20 歲代 c. 30 歲代 d. 40 歲代 e. 50 歲代 f. 60 歲以上

ご回答ありがとうございました。

2. 調査結果

1) 回答者の基本属性(性別・男女)

回答者の男女別内訳は男性 117 名 (60.0%)、女性 78 名 (40.0%) であった。年齢別内訳は、20 歳未満が 13 名 (6.7%)、20 歳代 84 名 (43.1%)、30 歳代 26 名 (13.3%)、40 歳代 25 名 (12.8%)、50 歳代 16 名 (8.2%)、60 歳以上 31 名 (15.9%) で、20 歳代がもっとも多く、20 歳未満を合わせるとほぼ半数を占めていた(図 3)。調査を実施した時期は大学の夏期休暇中であり大学生が多数訪れるため、20 歳代の回答者が多かったものと考えられる。また、20 歳未満の多くは、中・高校の修学旅行で訪れていた。一方、調査を実施したのが平日であったため、勤労者が多い 30～50 歳代は合わせて 34.3%にとどまった。

2) 同伴者

ひとり(同伴者なし)が 16 名 (8.2%)、夫婦・カップルが 58 名 (29.7%)、家族が 34 名 (17.4%)、友人 51 名 (26.2%)、30 人未満のグループ・団体が 11 名 (5.6%)、30 人以上のグループ・団体が 25 名 (12.8%) であった。回答者を含む同伴者数は 2 人が 107 名でもっとも多く、全体の 54.9%を占めていた(図 4)。一方、グループ・団体の一員として訪れていた回答者も 18.4%にのぼった。

伊勢神宮の場合は江戸期のおかげ参り以来、団体参拝の習慣が根付いており、修学旅行での参拝も第 2 次世界大戦前から行われていた。また、伊勢神宮は信仰する宗教に関係なく「日本の国が始まった地」、「日本人の心のふるさと」という意識をもっている人も多いことから、マスツーリズムが衰えた今日においても、修学旅行、社員旅行等で訪れる人が他の観光地に比べて多いものと考えられる。

3) 居住地

三重県外からの来訪者は大阪府在住者が 34 名 (17.4%)でもっとも多く、以下は愛知県 25 名 (12.8%)、神奈川県 18 名 (9.2%)、東京都 14 名 (7.2%)、三重県と京都府が各 12 名 (6.2%)、兵庫県 9 名 (4.6%)、静岡県 8 名 (4.1%)、千葉県 6 名 (3.1%)、滋賀県と奈良県が各 5 名 (各 2.6%) の順であ

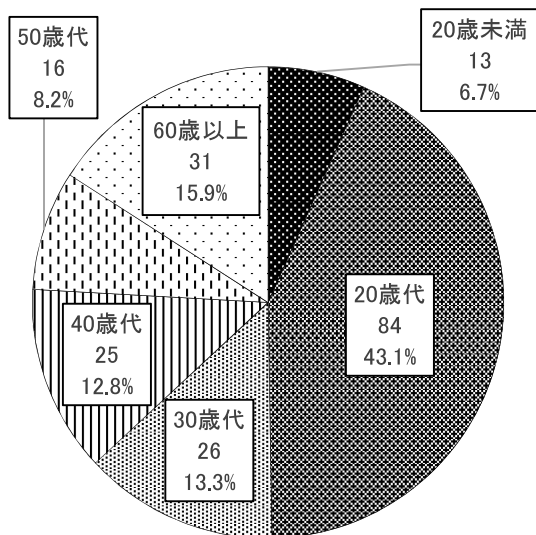


図 3 回答者の年齢構成

注：実数は回答者数
(アンケート調査をもとに作成)

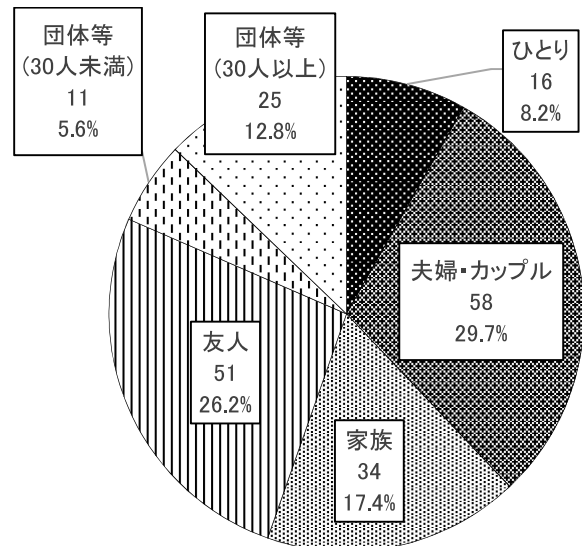


図 4 同伴者

注：実数は回答者数
(アンケート調査をもとに作成)

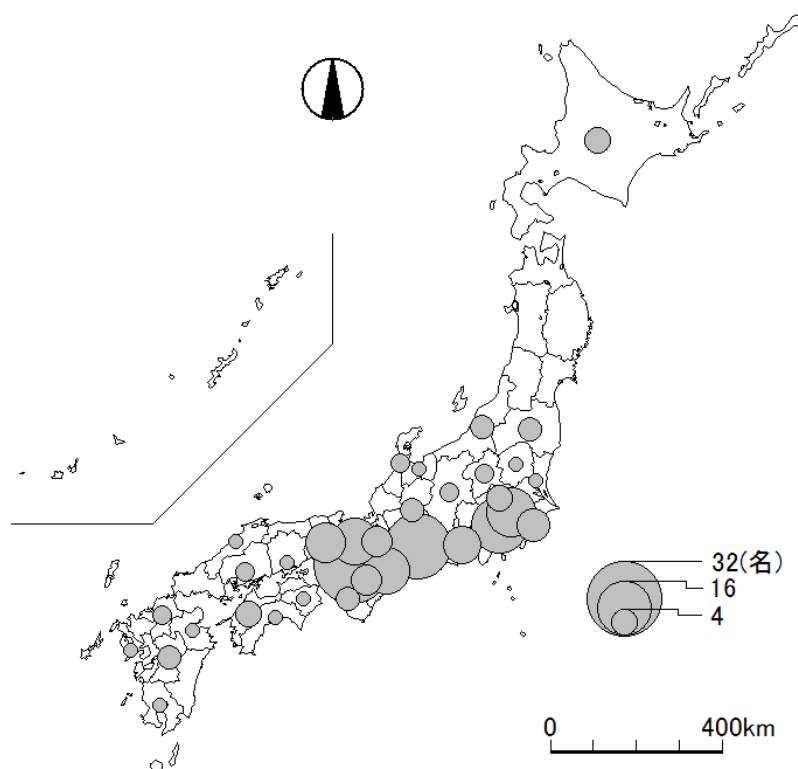


図5 回答者の居住地
(アンケート調査をもとに作成)

った(図5、4名以下は省略)。三重県内からの来訪者は12名で四日市市・松阪市・亀山市が各2名、伊勢市内・桑名市・志摩市・明和町が各1名、市町無回答が2名であった。

4) 利用交通手段

a. 地域外から伊勢・志摩・鳥羽地域までの交通手段

自家用車が79名(40.5%)でもっとも多く、以下は近鉄電車39名(20.0%)、観光バス(団体貸切)26名(13.3%)、観光バス(パックツアー)10名(5.1%)、その他37名(19.0%)、無回答4名(2.1%)であった(図6)。伊勢自動車道は2005年に東名阪自動車道と直結され、名古屋方面からは伊勢ICまでの全行程を高速自動車道で往き来できるようになったことから、その他に含まれているレンタカー利用者(7名)も加えると、62.5%が自家用車や観光バスを利用していた。

一方、関西方面や名古屋から近鉄電車を利用して来訪した回答者も比較的多くみられた。近鉄では、伊勢・志摩・鳥羽地域を沿線の重要な観光地と位置づけ、観光特急「しまかぜ」をはじめとする特急列車を名古屋や大阪から頻繁に運行している。また、往復の乗車券・特急券と伊勢・志摩・鳥羽地域の電車・バス乗り放題、有料観光施設のフリーパスなどをセットにした周遊券「まわりゃんせ」(有効期限4日間)等を販売しており、これを利用して訪れた回答者も多かったものとみられる。これに対して、その他に含まれるJR参宮線利用者は4名にすぎなかった。

b. 伊勢・志摩・鳥羽地域内での主な交通手段

自家用車が78名(40.0%)でもっとも多く、以下は近鉄電車35名(17.9%)、路線バスと観光バス(団体貸切)各27名(各13.8%)、観光バス(パックツアー)11名(5.6%)、その他15名(7.7%)、無回答2名(1.0%)であった(図7)。地域外から自家用車やレンタカーを利用してきた回答者は、大部分が自家用車やレンタカーを利用していた。一方、地域外から近鉄電車を利用してきた39名のうち地域内でも近鉄電車を主に利用していたのは23名で、残りは主に路線バスや観光バス(団体貸

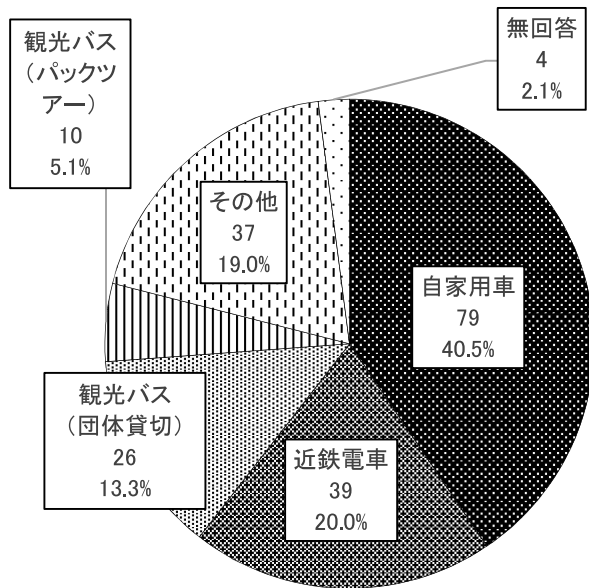


図6 地域外から伊勢・志摩・鳥羽地域までの交通手段

注：実数は回答者数
(アンケート調査をもとに作成)

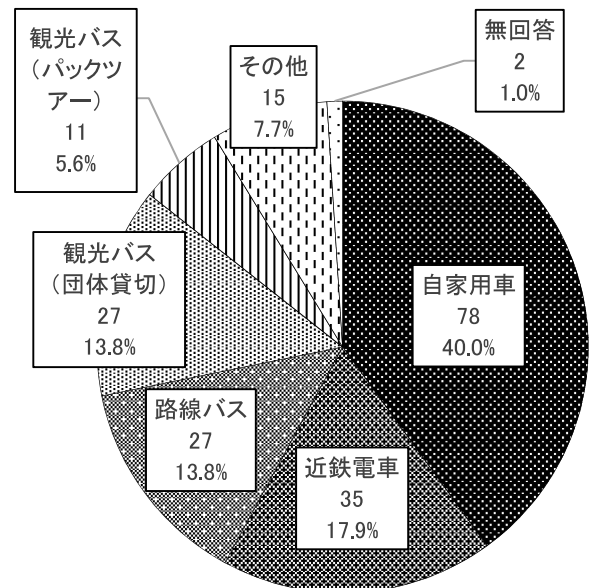


図7 伊勢・志摩・鳥羽地域内の主な交通手段

注：実数は回答者数
(アンケート調査をもとに作成)

切)を利用して地域内を巡っていた。

地域外からは近鉄以外の交通機関を利用し、地域内では近鉄電車を利用していた回答者も 12 名いた。伊勢・志摩・鳥羽地域は複雑な地形であることから、カーブや坂道が多い道路も多い。また駐車場が少なく周辺道路が渋滞する観光スポットも多い。このため、地域外から車で来訪しても、地域内では定時性の高い近鉄で移動したのと考えられる。

5)伊勢・志摩・鳥羽地域への来訪回数

伊勢・志摩・鳥羽地域を初めて訪れたのは 91 名 (46.7%)、リピーターは 104 名 (53.3%)であった。また、三重県外から訪れた 183 名のうち初めて訪れたのは 90 名 (49.2%)、リピーターは 93 名で (50.8%)であった。県外からのリピーターのなかには、来訪回数が 5～9 回と答えた人が 17 名、10～50 回あるいは「数え切れない」と答えた人が 12 名おり、「日本人の心のふるさと」とされる伊勢神宮やその周辺を頻繁に訪れるヘビーリピーターも存在することが明らかになった。

6)宿泊状況

三重県内から訪れていた 12 名のうち 8 名は日帰りであり、残る 4 名はいずれも 1 泊であった。この 4 名の宿泊地は、伊勢が 2 名、鳥羽が 2 名であった。

三重県外から訪れた 183 名の旅行全日程における総宿泊日数は、日帰り 37 名 (県外からの来訪者の 20.2%)、1 泊 98 名 (53.6%)、2 泊 42 名 (23.0%)、3 泊 4 名 (2.2%)、4 泊 2 名 (1.1%)、平均宿泊日数は日帰りを含めると 1.10 泊、日帰りを除くと 1.38 泊であった。また、地域別のべ宿泊日数は伊勢市が 108 泊、志摩市が 20 泊、鳥羽市が 44 泊、3 市以外の地域が 30 泊であった。

総宿泊日数と伊勢市での宿泊日数の関係を見ると、総宿泊日数が 1 泊であった 102 名 (県内からの来訪者 4 名を含む)のうち 54 名が伊勢市で宿泊していたが、48 名は伊勢市以外で宿泊していた

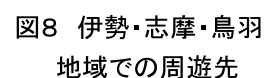
以上の結果を総じてみると、総宿泊日数が多い回答者ほど伊勢市で宿泊する傾向がみられるものの、隣接する鳥羽市や志摩市で宿泊する人も目立つ。鳥羽市や志摩市あるいは3市以外で宿泊した回答者は必然的に伊勢市での滞在時間が短くなると考えられる。

a. 伊勢・志摩・鳥羽地域での周遊先(複数回答可)

表2 回答者の総宿泊日数と伊勢市での宿泊日数

資料:アンケート調査により作成

单位:名



(アンケート調査をもとに作成)

伊勢志摩スカイライン、鳥羽展望台、志摩地中海村(各 6 名)、伊勢安土桃山城下街、鳥羽湾めぐりとイルカ島(各 4 名)、倭姫宮(3 名)、ミキモト真珠島・横山展望台(各 2 名)であった(図 8)¹⁹⁾。

この調査は伊勢神宮内宮の鳥居前町である「おはらい町」で実施したにもかかわらず、33 名が内宮に参拝していなかった。内宮に参拝しなかった回答者のなかには、「参拝するのが当然」と考えて調査者に内宮に参拝したことを申告しなかった人もいると考えられるが、「おはらい町やおかげ横丁で買い物や飲食をするのが目的。時間がないので参拝はしない」と明言した人も少なからず存在した。また内宮と外宮の双方に参拝したのは 108 名であり、外宮に参拝した回答者は 1 名を除いて内宮にも参拝していることが明らかになった。

伊勢神宮以外では、二見浦、鳥羽水族館、志摩スペイン村を訪問した回答者が比較的多くみられたが、それらと他の観光スポットとの間には訪問者数に大きな開きがみられた。伊勢・志摩・鳥羽地域の周遊先は、人気の高いスポットに集中しがちであることを示唆しているといえよう。

b. 伊勢・志摩・鳥羽地域以外の周遊先(複数回答可)

回答者が伊勢・志摩・鳥羽地域以外で訪れた三重県内の観光スポットは、ナガシマスパーランド(桑名市)と紀伊山地の霊場と参詣道(和歌山・奈良県も含む)が各 8 名、なばなの里(桑名市)が 5 名、伊賀上野城跡(伊賀市、城跡内の伊賀流忍者博物館を含む)3 名、鈴鹿サーキット(鈴鹿市)と松阪城(松阪市)が各 2 名、御在所岳(菰野町・滋賀県東近江市)、大内山動物園(大紀町)が各 1 名であった(図 9)。三重県外では名古屋市に立ち寄った回答者が 2 名いた。

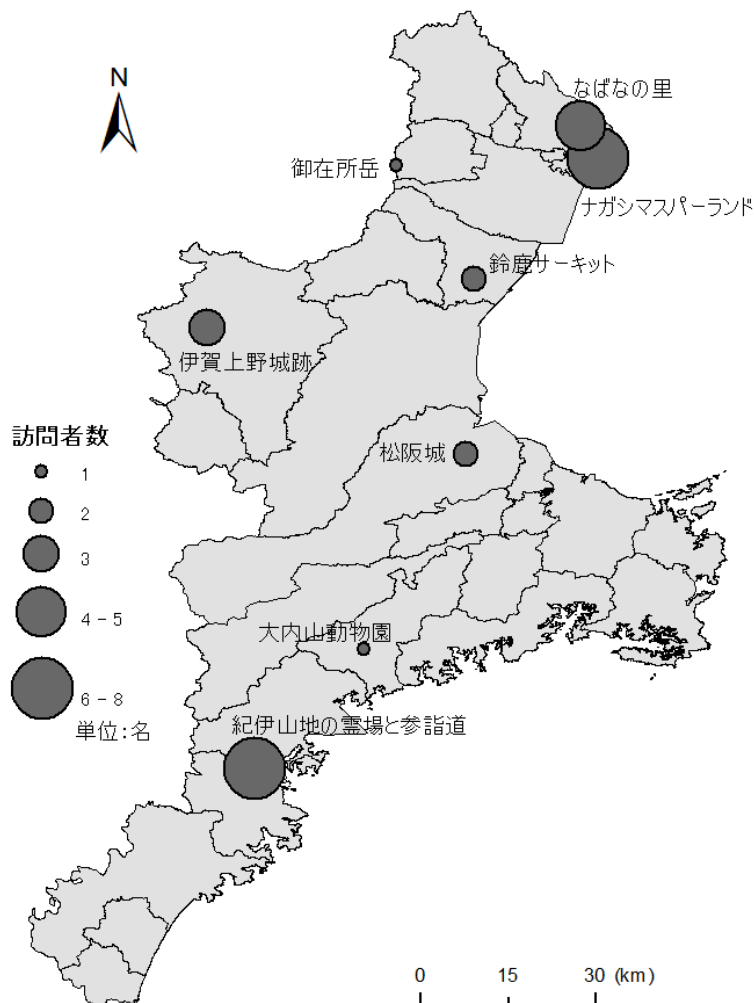


図9 伊勢・志摩・鳥羽地域以外での周遊先(三重県内)

(アンケート調査をもとに作成)

ナガシマスパーランドとなばなの里に立ち寄っている回答者は1名を除いて20～30歳代であり、4名は双方に立ち寄っていた。これとは対照的に、紀伊山地の霊場と参詣道を訪れた8名のうち5名は50歳代か60歳以上であった。これらの観光スポットは三重県の南端と北端に位置しているが、ナガシマスパーランドとなばなの里は若年層のデートスポットとして人気がある。また、紀伊山地の霊場と参詣道は2004年に世界文化遺産に登録されてから中高年に人気となっている。これらの観光スポットは、それぞれの年代にとって魅力的であることから、比較的多くの回答者が立ち寄ったものといえよう。

しかし、それ以外の主な観光スポットは広範囲に分散しており、スポット間の移動時間がかかる。また、関西や名古屋方面からは高速自動車道や近鉄電車を利用している回答者が多く、高速自動車道から一旦出たり途中下車したりしてまで、途中にある観光スポットに立ち寄るとは考えにくい。さらに、ナガシマスパーランド、なばなの里、紀伊山地の霊場と参詣道ほどの魅力がない、あるいは魅力が観光客に十分伝わっていないことも、立ち寄る人が少ない原因と考えられる。

8) 観光情報の入手手段(複数回答可)

伊勢・志摩・鳥羽地域に関する観光情報の入手手段は、口コミ・知人の紹介(46名)がもっとも多く、以下は自治体・観光協会等のホームページ(32名)、現地の観光案内所(23名)、民間の旅行予約サイトや(電子媒体の)旅行マップ(18名)、紙媒体の観光パンフレット・マップ(11名)、旅行者のSNSやブログ、テレビ番組(各8名)、旅行雑誌・ガイド(1名)の順であった(図10)。

その他は37名であったが、うち13名がインターネット、7名が元々知っていたと回答した。インターネットと答えた人のなかには、閲覧したホームページが公的機関のものなのか、民間のものなのかが判別できず、単に「インターネット」と回答したケースもあった。また、元々知っていたと答えた人7名のうち5名と、無回答であった13名のうち9名はリピーターであることから、既に伊勢・志摩・鳥羽地域の観光情報を知っており、あえて調べる必要はなかったものと考えられる。

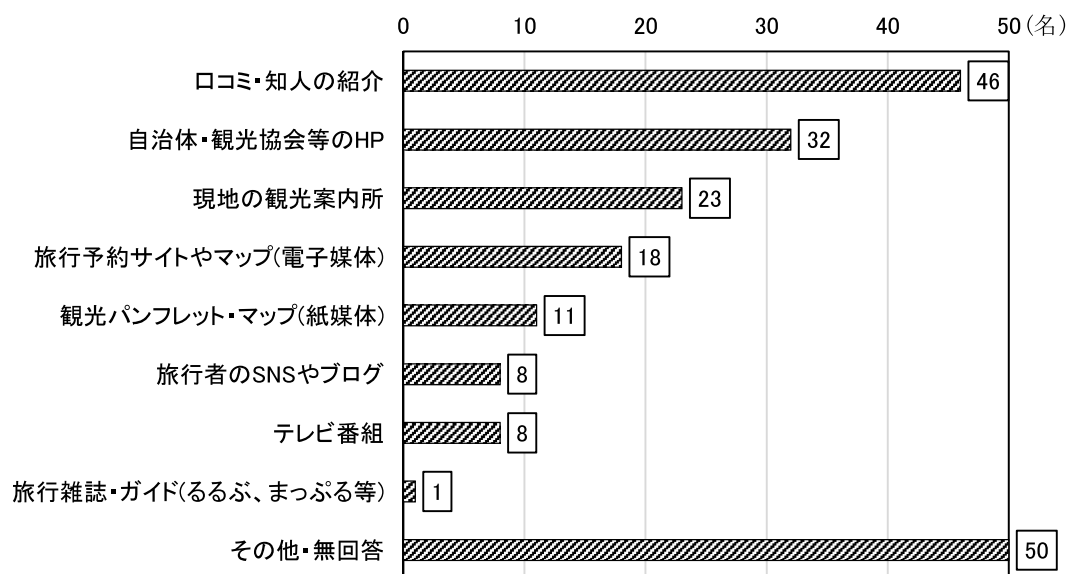


図10 伊勢・志摩・鳥羽地域に関する観光情報の入手手段
(アンケート調査をもとに作成)

9) 「おはらい町」「おかげ横丁」での購買・飲食(複数回答可)

a. 購買

「おはらい町」「おかげ横丁」で買った物は赤福(18名)がもっとも多かった。以下3名以上が買っていた物はお守り(12名)、日本酒(7名)、伊勢エビせんべい(6名)、菓子(5名)、へんば餅、御朱印帳(各4名)、お札、おかげ犬サブレ、松阪牛(各3名)であった。ただし、お守り、御朱印帳、お札は、「おはらい町」「おかげ横丁」で買ったのではなく、伊勢神宮で授かったものと考えられる。

b. 飲食

「おはらい町」「おかげ横丁」で食べた物は赤福(45名)がもっとも多かった。以下5名以上が食べていた物は、伊勢うどん(31名)、コロッケ(19名)、団子(14名)、松阪牛、松阪牛串(各13名)、赤福かき氷(10名)、あわび(8名)、ジュース(7名)、ソフトクリーム(6名)、手こね寿司、メンチカツ、アイスクリーム(5名)であった。コロッケ、ジュース、ソフトクリーム、メンチカツ、アイスクリームなど、類似した物が多く観光スポットにあるものが目立つ反面、赤福をはじめ、伊勢うどん、松阪牛、松阪牛串、手こね寿司など、この地域の特産品の人気が高かった。

V 伊勢神宮および周辺地域における観光の課題と解決策

本研究では伊勢神宮の鳥居前町である「おはらい町」を訪れた観光客へのアンケートをもとに、利用交通手段や伊勢・志摩・鳥羽地域周辺での観光行動(来訪回数、宿泊状況、周遊地、購買・飲食)などについて実態を把握し分析した。その結果、伊勢神宮および周辺地域における観光には、以下のような課題があると考えられる。本章では課題を提示するとともに、解決策についても提案を試みる。

1. 外宮参拝客の少なさとその解決策

伊勢神宮の祭事は「外宮先祭」と言われ、まず外宮から行われるため、参拝する場合も祭事の順序にならって外宮、内宮の順に双方を参るのがならわしとなっている。しかし、第Ⅲ章でも述べたように、近年では外宮参拝客が内宮参拝客を大きく下回っている。原因としては自動車交通の利便性の差や、内宮近くに集客力の高い「おはらい町」「おかげ横丁」があることが考えられるが、伊勢市の中心市街地に隣接する外宮に参拝客が来なければ、中心市街地の衰退にも結びつく。

外宮、内宮の順に双方を参るならわしを、国内外の人々により広く周知する必要がある。近年ではパワースポット巡りや御利益のある神社仏閣を巡る若年層も多いので、若年層に向けて「外宮、内宮の順に双方に参り、さらに付近の別宮、摂社、末社、所管社を巡れば御利益が増大する」といったPRをすることも有効と考えられる。

主要駅ー外宮ー内宮の間には路線バスが頻発しており、それらを利用したアンケート回答者も多かった。また、今回の調査では利用者がほとんどいなかったが、伊勢市観光協会では自転車や電動アシスト自転車の貸し出しを外宮前観光案内所、宇治山田駅観光案内所、伊勢市駅手荷物預かり所、伊勢夫婦岩めもと横丁の4か所で行っており、2018年5～6月には期間と場所限定で乗り捨ての実証実験も行った。今後は、レンタサイクルの利便性を高めるとともに、公共の有料駐

車場や市内の宿泊施設を利用し、かつ外宮、内宮の双方に参拝した観光客には、バス運賃やレンタサイクルの利用料金の一部をキャッシュバックするといった取り組みも検討するべきであろう。

2. 内宮と鳥居前町の主客関係の逆転とその解決策

第Ⅰ章でも述べたように、1970年代には内宮に参拝して「おはらい町」にこない観光客が増加した。しかし、近年では第Ⅳ章の「7)周遊先 a.伊勢・志摩・鳥羽地域での周遊先」の結果からもわかるように、「おはらい町」や「おかげ横丁」に立ち寄って、内宮には参拝しない観光客も増えており、内宮と鳥居前町の関係が「主客転倒」状態になりつつある。

このような状態から脱するためには、「おかげ横丁」発着の「おはらい町・内宮ツアー」を実施することを提案したい。「おかげ横丁」には日本神話の体験施設である「おかげ座 神話の館」がある。ここで日本神話について学んだ後に、「おはらい町」や伊勢神宮について歩きながら学べるスタディツアーを実施することで、伊勢神宮や特産品についてより深く知ってもらえれば、神宮と鳥居前町の双方にとってプラスになると考えられる。

3. 伊勢・志摩・鳥羽地域における滞在時間の短さとその解決策

伊勢・志摩・鳥羽地域の主要観光スポットは各所に分散している。第Ⅰ章でも述べたように、地域内は山がちで海岸線が入り組んでいるため、スポット間を車で移動するにも時間を要し、観光シーズンには激しい渋滞も発生する。このため、地域内での観光は各スポットに短時間立ち寄り、次の観光スポットへと駆け足で移動する「周遊型観光」になりがちである。

各スポットでの滞在時間を延ばすには、伊勢・志摩・鳥羽地域全体での滞在日数を増やす仕組みづくりが必要であろう。幸いこの地域には近鉄が走っており、名古屋や大阪から直通特急が頻繁に運行されている。また、第Ⅳ章第2節の「4)利用交通手段」でも述べた伊勢・鳥羽・志摩スーパーパスポート「まわりゃんせ」は、近鉄の駅だけでなく、全国の旅行代理店でも発売している。

「まわりゃんせ」は近鉄電車発駅からフリー区間(松阪～賢島間)までの往復乗車券と特急券引換券、フリー区間内の乗車券と何度でも特急を利用できる特急券引換券、三重交通バス(松阪・伊勢・鳥羽・志摩地域内)・鳥羽市かもめバス乗り放題、鳥羽市営定期船・志摩マリンレジャーあご湾定期船乗り放題、地域内の20施設に各1回無料で入場・入館できる特典がついて大人9,800円(小児5,300円)である(料金は2019年2月現在)。「まわりゃんせ」で無料入場できる志摩スペイン村の入場料が通常5,300円、鳥羽水族館の入館料が通常2,500円、名古屋―宇治山田間の特急料金・運賃が往復7,180円であることを考えると、極めて割安である。

しかし、「まわりゃんせ」に関してはいくつかの旅行情報サイトに推奨記事が掲載されているものの、利用可能施設や地元の観光協会のサイトにはほとんど情報が掲載されていない。「まわりゃんせ」のような周遊きっぷは、伊勢・志摩・鳥羽地域全体における滞在日数の長期化だけでなく、個々のスポットでの滞在時間の増加、宿泊施設の利用促進、公共交通機関の利用促進による自然環境の保全、旅費を節減したい学生や家族連れの観光促進など、さまざまなメリットを地域にもたらすので、官民に関係なく地域内の各機関のサイトでその存在を知らせ、利用を拡大していくことが望まれる。

4. 観光情報の不足とその解決策

この地域の行政や観光協会のサイトは、主要観光スポットに関する情報が充実している反面、「まわりゃんせ」の情報不足に代表されるように、知名度が低い観光スポットや公共交通に関する情報が充実していない感が否めない。例えば、伊勢市観光協会公式サイトの観光案内にある「神社・仏閣」には外宮・内宮を含め 22 の寺社へのリンクがあるが、クリックしてもグーグルマップで位置が表示されるだけで、それぞれの寺社の由来やアクセス方法、寺社のホームページへのリンクなどは見当たらず、観光客に観光スポットの魅力を伝えているとは言い難い²⁰⁾。

一方、伊勢神宮の公式サイトには、神宮の由来や祭事、参拝方法はもちろん、別宮、摂社、末社、所管社の紹介や、日本語・英語・中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語・イタリア語と車いす用の域内マップが用意されている²¹⁾。それらのマップには社殿・施設の説明や参拝路、撮影禁止場所、授乳室、ペット預かり所などか詳細に示されている。さらに Web 上で閲覧できるマップにはおすすめ撮影スポットや Wi-Fi のアクセスポイントまで表示されている。また Web 上で閲覧できるマップでは、滞在時間に応じた域内のモデルコースや市内の寺社を半日、1 日、1 泊 2 日で巡るモデルコースも表示でき、公共交通機関の時刻表へのリンクも用意するなど、自らのテリトリーを超えた観光対応を行っている。今後は、公共交通機関、観光関連施設、神社仏閣、観光協会のサイトが、相互リンクを貼ったり自らのテリトリーを超えた情報提供を行ったりすることにより、相互の情報を観光客に知らせていく仕組みを構築することが重要と考えられる。

本稿は、平成 30 年度「専門演習 I」3 年助重雄久ゼミナールで実施した「おはらい町」での観光動向調査の成果報告を助重が加筆・修正したものである。内容の一部は 2018 年度富山地学会学生研究発表大会 (2019 年 3 月 3 日)にて報告を行った。

注および文献

- 1) 東 良二 (2006) : おはらい町のまちづくり. 区画整理 49-7, 40-43.
- 2) 新田 功 (2014) : 観光の原点としての伊勢参宮についての経済的・統計的考察. 一般社団法人新情報センター機関誌 102, 32-41.
- 3) 太田 孝 (2015) : 『昭和戦前期の伊勢参宮修学旅行と旅行文化の形成』古今書院, pp. 41-42.
- 4) 有限会社薫習メゾスコピアホームページ「地域ブランド検証・伊勢おはらい町」による。
<https://www.meso-scope.co.jp/report/subwin/ise.html> (2019 年 2 月 26 日閲覧)
- 5) 西木田恭生 (1998) : 伊勢名物「赤福」の本物手づくり“おかげ横丁”一切妻のまち並み“おはらい町”賑わいの核. 長銀総研 L 15-10, 16-22.
- 6) 前掲 1)
- 7) 阿形次基 (1998) : “伊勢・内宮門前町”～おはらい町のまちづくり. 観光 380, 20-25.
- 8) 伊勢内宮前おかげ横丁公式サイトによる。
<https://www.okageyokocho.co.jp> (2019 年 2 月 26 日閲覧)
- 9) 伊勢市公式サイト「伊勢市のプロフィール」による。
<http://www.city.ise.mie.jp/3548.htm> (2019 年 2 月 24 日閲覧)
- 10) 津地方気象台「三重県の気候特性」による。
<https://www.jma-net.go.jp/tsu/kansokutoukei/kisyoutokusei/tokusei.html> (2019 年 2 月 24 日閲覧)
- 11) 前掲 9)
- 12) 大山真珠店ホームページによる。 <http://oyamapearl.co.jp/pearl/index.html> (2019 年 2 月 25 日閲覧)
- 13) 伊勢神宮公式サイトによる。 <http://www.isejingu.or.jp/> (2019 年 2 月 26 日閲覧)
- 14) 伊勢志摩観光ナビ「二見興玉神社(夫婦岩)」による。
<https://www.iseshima-kanko.jp/spot/1292> (2019 年 2 月 27 日閲覧)

15)前掲 14)

16)鳥羽水族館ホームページ <https://www.aquarium.co.jp/> (2019年2月26日閲覧)

17)志摩スペイン村ホームページ <https://www.parque-net.com/> (2019年2月26日閲覧)

18)伊勢志摩観光ナビ「横山展望台」による。

<https://www.iseshima-kanko.jp/spot/1249> (2019年2月27日閲覧)

19)訪問者が1名の観光スポットは省略した。なお、「おはらい町」とその中にある「おかげ横丁」は調査地であるので、周遊先には含めていない。

20)伊勢市観光協会公式サイトによる。

<https://ise-kanko.jp/> (2019年2月28日閲覧)

21)前掲 13)